

中 中学社会 歴史的分野
(歴史 709)
拡大版【18P】
(全6分冊) ①

中学社会

歴史

的分野

拡大版【18P】
(全6分冊)

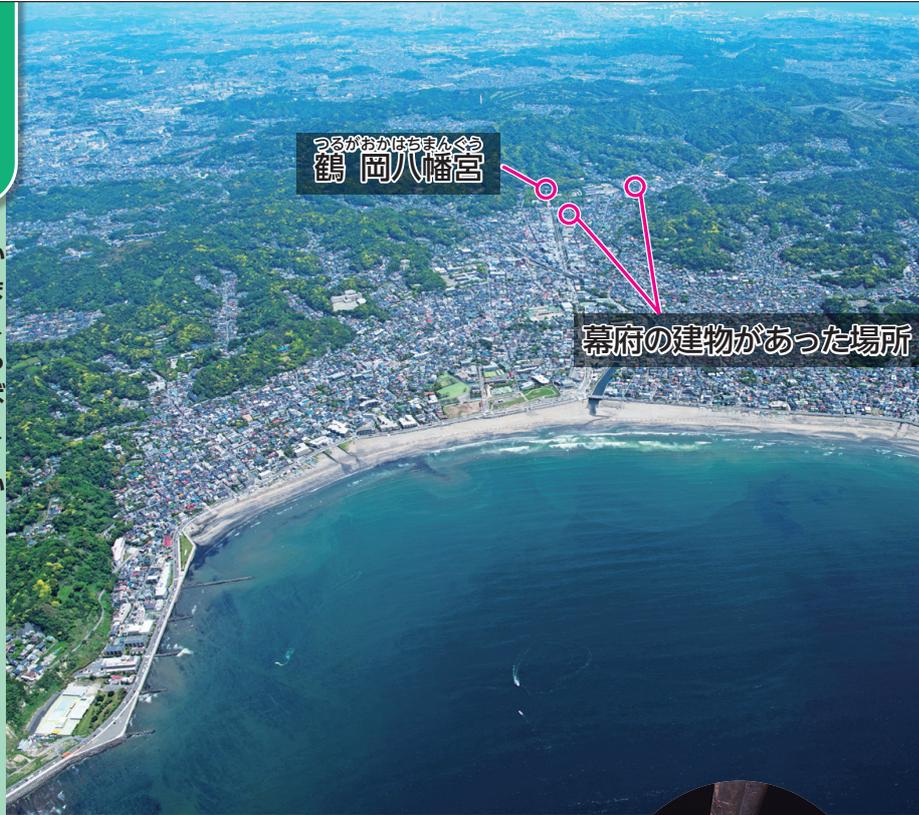


日本文教出版

A5判 18P 歴史

2

鎌倉幕府の成立



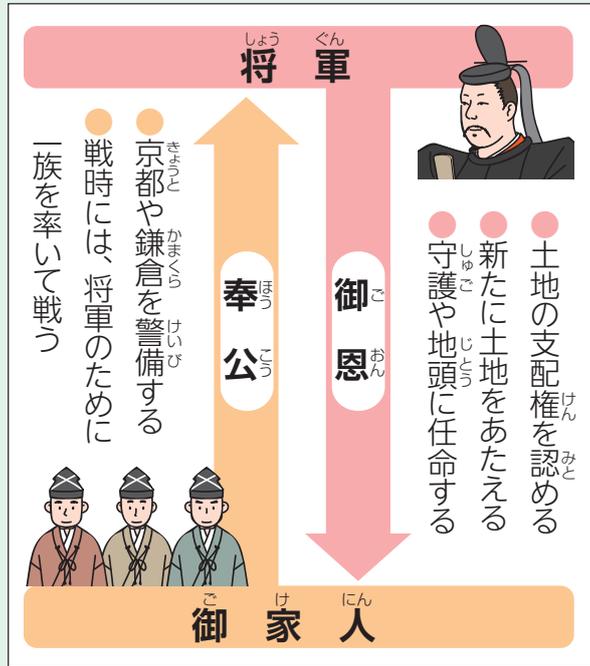
↑ ① 現在の鎌倉のようす

➡ ② 源頼朝 (1147～1199) (源頼朝木像
甲府市 善光寺蔵)



鎌倉の地形の
特徴は何かな。

72-1



↑ **4** 御恩と奉公



← **3** ^{きりどお}切通し 山の一部を切り開いて、鎌倉に通じる細い道がつけられました。

72-2



源頼朝がつくった政治のしくみには、どのような特徴があるのでしょうか。



見方・考え方

つながり

源頼朝と御家人との関係に着目しましょう。

72-3

92

A5判 18P 歴史

1

鎌倉幕府の政治

—武士のための政治の始まり—

みなもとのよりと も かまくらばく ふ
源 頼朝と鎌倉幕府

1180年、伊豆^{いず}にいた ^{みなもとのよりと も}源 頼朝^{きそ}②や木曾^{きそ}
(長野県^{ながの})の源義仲^{よしなか}などが、平氏^{へいし}をたおそう
と兵をあげ、全国的な内乱^{ないらん}が始まりました。

鎌倉^{ほんきよ}①を本拠^{しき}として指揮をとった頼朝
は、集まってきた武士と主従^{しゅじゆう}関係を結ん
で御家人^{ごけにん}とし、武家の政治のしくみを整え
ていきました。

頼朝^{はけん}が派遣した弟の義経^{よしつね} (➡ 66-3 ペー
ジ)らは、平氏を追って西に進み、1185年、
壇ノ浦^{だんのうら}の戦い(山口県^{やまぐち})で平氏をほろぼしま

72-4

93

した。その後頼朝は、対立して姿を隠した義経を捕らえるとして、朝廷にせまって国ごとに守護を、荘園や公領に地頭をおくことを認めさせ、御家人をこの役につけました。さらに、義経をかくまったことを理由に、奥州藤原氏を攻めほろぼし、1192年、頼朝は、武士の総大将として征夷大將軍に任じられました。

こうして12世紀の末に鎌倉に立てられた武士の政権を鎌倉幕府①⑨といい、幕府の続いた約140年間を鎌倉時代といいます。

將軍は、御家人の領地を公認・保護し、御家人を守護や地頭などに任命しました。これを御恩④といいます。その代わりに、

72-5

御家人は^{きょうと}京都・^{けいび}鎌倉の警備にあたり、戦いのときには、一族・^{ろうとう}郎党や^{げにん}下人(➡
68-6 ページ)を率いて命がけで^{かつせん}合戦に参加しました。これを^{ほうこう}奉公4とといいます。
鎌倉幕府の組織は、この御恩と奉公の関係をもとに成り立っていました。

① 鎌倉幕府が成立した時期については、東日本の支配権を朝廷に^{みと}認められた1183年、守護・地頭の設置が認められた1185年、頼朝が征夷大將軍となった1192年などの説があります。

小学校

学習した人物：源頼朝・源義経

72-6

73-1

95

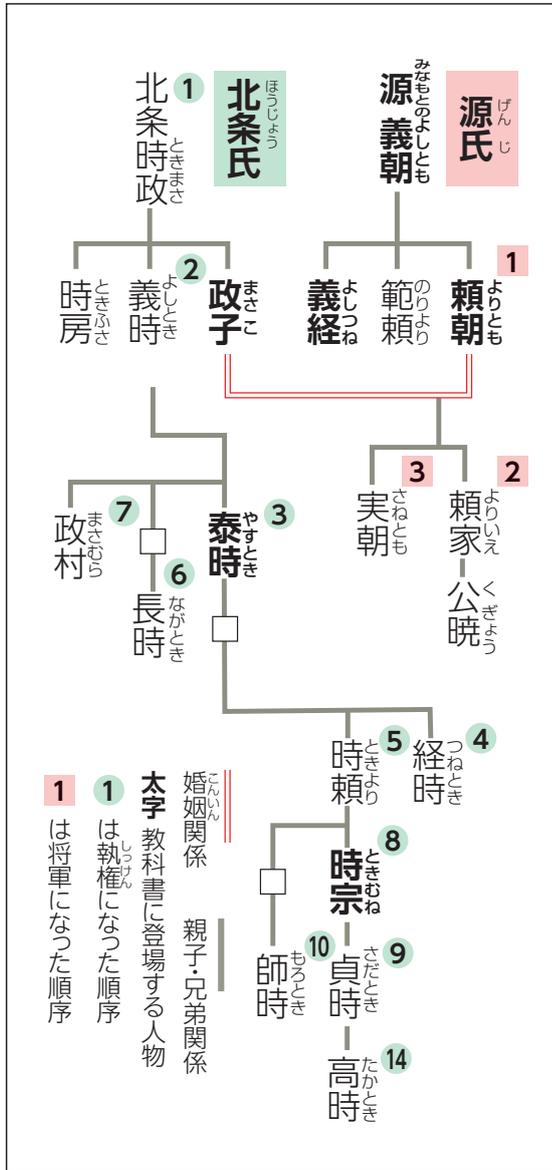
基本用語 中世

武士が政治の実権をにぎった時代のうち、^{へいあん}平安時代末から^{せんごく}戦国時代までを中世といいます。

年	できごと
1180	^{げんぺい} 源平の内乱が始まる
1185	^{げんじ} 源氏が ^{だんのうら} 壇ノ浦の戦いで ^{へいし} 平氏をほろぼす
1192	^{みなもとのよりとも} 源頼朝が ^{せいいたいしょうぐん} 征夷大將軍に任じられる
1221	^{じょうきゅうらん} 承久の乱が起こる
1232	^{しっけんほうじょうやすとき} 執権北条泰時によって ^{ごせいばいしきもく} 御成敗式目が制定される

↑ ⑤ 12～13世紀の日本の動き

72-7



↑ ⑥ 北条氏の系図と源氏との関係

73-2



7 承久の乱と北条政子の言葉

みな心を一つにして聞きなさい。これが最後の言葉です。頼朝^{どの}殿が平氏^{せいぼつ}を征伐し、幕府を開いて以降^{いこう}、その御恩は山よりも高く、大海よりも深いものです。お前たちも御恩に報いる気持ちはあるでしょう。ところが今、執権北条義時^{よしとき}を討てという命令が、朝廷から出されました。名誉^{めいよ}を重んじる者は、源氏三代の将軍が築き上げたものを守りなさい。上皇方につきたいと思う者は、今すぐ申し出なさい。

(『吾妻鏡』より一部要約)



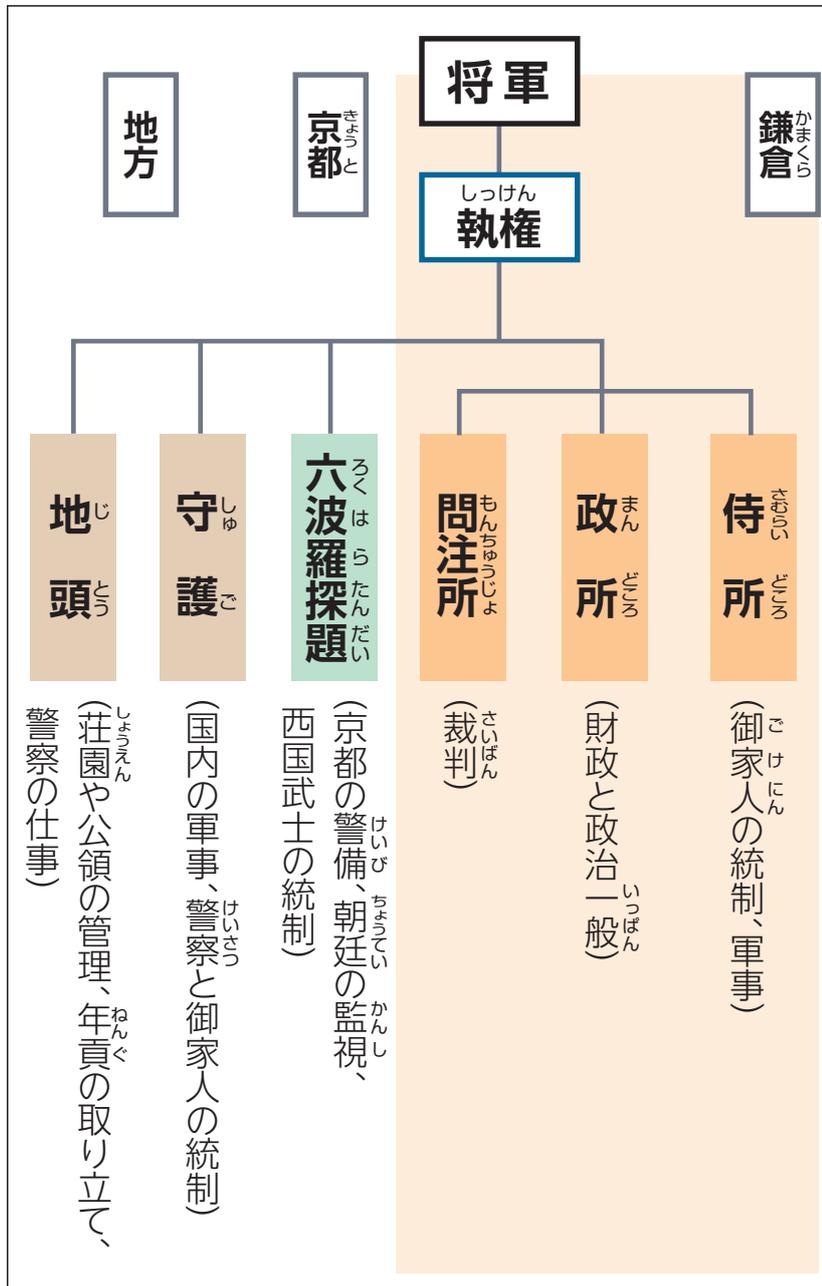
8 北条政子

(1157~1225)

(かながわ 神奈川県 安養 院蔵)

いん

73-3



↑ ⑨ 鎌倉幕府のしくみ

73-4

しっけん 執権政治

頼朝の死後、頼朝の妻^{まさこ}政子⑧の実家である^{ほうじょうし}北条氏⑥がしだいに幕府の^{じっけん}実権をにぎるようになり、^{しっけん}執権という地位について政治を行いました(執権政治)。

源氏の将軍が3代で絶えると②、京都で院政(⇒ 70-4 ページ)を行っていた後^{とばじょうこう}鳥羽上皇は、1221(承久^{じょうきゅう}3)年、幕府をたおそうとして兵をあげました。しかし、北条氏に率いられた幕府の大軍に敗れ、^お隠岐(島根県)に流されました。これを承久^{じょうきゅう}の乱⑦(⇒ 74-1 ~ 75-7 ページ)といいます。乱後、幕府は、上皇方についた^{きぞく}貴族 73-5

や武士の荘園を取りあげ、そこに新たに地頭をおきました。また、京都には六波羅探^{ろくはらたん}題^{だい}をおいて、朝廷^{かんし}を監視し、西日本の御家人を統制しました。これによって、西国にも幕府の支配が広くおよぶようになりました。

1232(貞永元^{じょうえい})年、執権北条泰時^{やすとき}は、御家人の権利・義務や、領地の裁判^{さいばん}などについての武家社会のならわしをまとめ、御成敗式目^{ごせいばいしきもく}③⑩(貞永式目)を定めました。この法律^{ほうりつ}は、その後長く武士の政治のよりどころとなりました。

- ② 源氏の将軍が絶えた後、頼朝の遠縁^{とおえん}にあたる京都の貴族が将軍にむかえられました。
- ③ 成敗は裁判，式目はきまり（法規）という意味です。



10 御成敗式目

- 諸国^{しょこく}の守護の仕事は、御家人の京都を守る義務を指揮・催促^{さいそく}すること、謀叛^{むほん}や殺人などの犯罪人を取りしめることである。
(第3条)
- 地頭は荘園^{ねんぐ}の年貢をさしおさえてはいけない。
(第5条)
- 20年以上継続^{けいぞく}してその地を支配していれば、その者の所有になる。
(第8条)
(一部要約)

73-7



深めよう

承久の乱の後、幕府の政治はどのように変わったのでしょうか。



確認

鎌倉幕府が武士に支持された理由を説明しましょう。

73-8

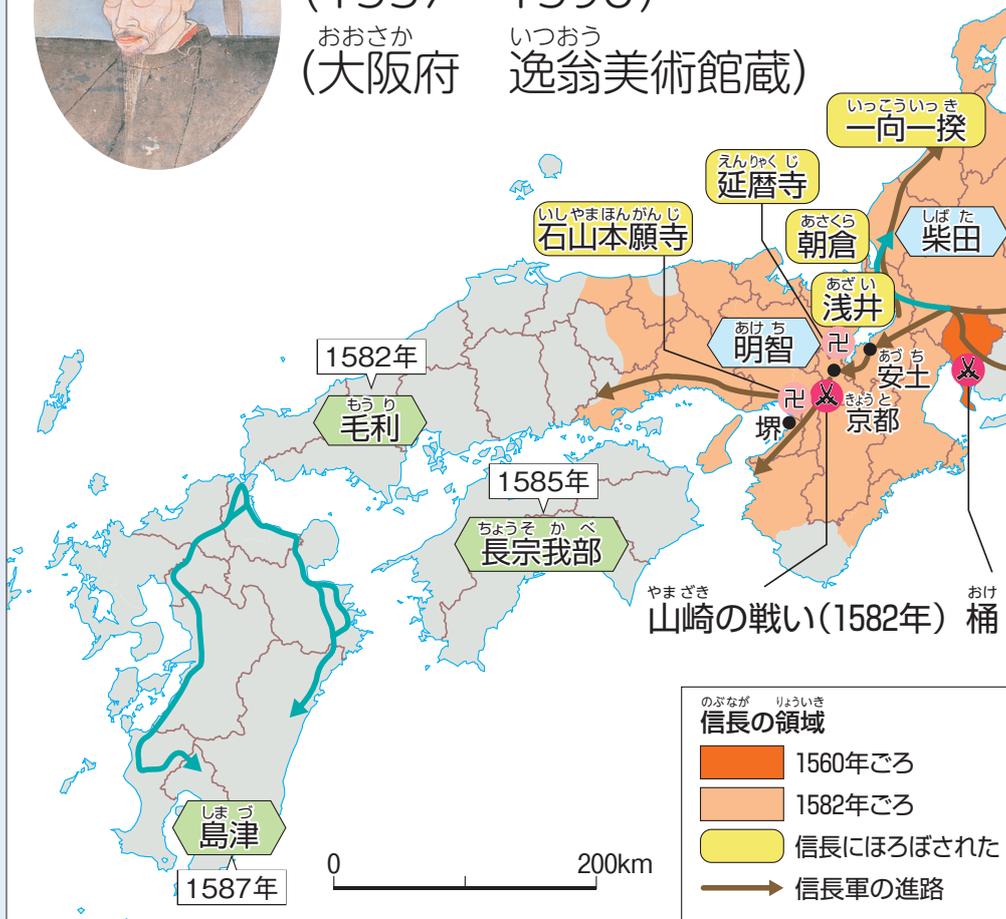
103



とよとみひでよし
← 2 豊臣秀吉

(1537~1598)

おおさか いたつおう
(大阪府 逸翁美術館蔵)



↑ 2 織田信長・豊臣秀吉の勢力の広がり

資料活用

97-3 ページ 6 と比べてみま

しょう。

118-1



-  秀吉にほろぼされた主な勢力
-  秀吉に服従・降伏した大名
- 主な勢力  年次は服従・降伏した年
-  秀吉軍の進路

おだのぶなが とよ
織田信長・豊
とみひでよし
臣秀吉は、どの
ような勢力と
戦っているかな。



118-2

年	できごと
1543	てっぽう 鉄砲が伝来する
1549	キリスト教が伝来する
1560	おけはざま いまがわよしもと 桶狭間の戦いで今川義元を破る
1569	さかい 堺を支配下におく
1570	いっこういっき 一向一揆との戦い(~80)
1571	ひ えいざんえんりやくじ う 比叡山延暦寺を焼き討ちする
1573	むらまちばくふ 室町幕府をほろぼす
1575	ながしの たけだ 長篠の戦いで武田氏を破る
1576	あづちじょう 安土城を築く(~79)
1577	らくいち らくざ 安土城下に楽市・楽座政策
1582	ほんのうじ ぼつ 本能寺の変(信長没す)
	やまざき あけちみつひで 山崎の戦いで明智光秀をたおす
1583	たいこうけんち 太閤検地を始める(~98)
1585	かんぱく 関白となる
1588	かたながり 刀狩令を出す
1590	全国統一を果たす

信長が行ったこと

秀吉が行ったこと

↑ ③ 信長・秀吉の全国統一までのあゆみ

118-3



武士である秀吉が^{ひやくしやう}百姓や
町人に対する支配を^{じゆうし}重視
したのはなぜでしょうか。



見方・考え方

比較

^{たいこうけんち}太閤検地と^{かたながり}刀狩が、何をどのように変化
させたのかに着目しましょう。

118-4

119

A5判 18P 歴史

4 ひでよし 秀吉による全国統一 —近世社会の基礎づくり—

とよとみひでよし 豊臣秀吉の 全国統一

とうかい きん き ほくりく おだ
東海・近畿・北陸地方をほぼ統一した織田

のぶなが たけだ ちゅうごく
信長は、武田氏をほろぼした後、中国地

方の毛利氏を討とうとしました。しかし、

かしん あげちみつひで せ きょうとほんのう
家臣の明智光秀に攻められ、京都の本能

寺で自害しました。信長の家臣の豊臣秀吉

①は、山崎の戦い(京都府)で光秀をたお

して信長の後継者となり、次いで四国・

きゅうしゅう かんとう とうほく
九州，さらに関東・東北地方の大名を

したが
従えて，1590年に全国統一をなしとげま

した②③。その間，秀吉は，全国に200

118-5

万石^{ごく}をこえる領地をもつようになり、大阪^{おおさか}

④・京都・伏見^{ふしみ}に城^{しろ}を築いて、全国の金山・銀山を支配下におきました。さらに、関白^{かんぱく}(⇒ 54-4 ページ)の地位について、天皇^{てん}のうの伝統的な権威^{けんい}をも利用して政治を行いました。

信長は安土^{あづち}に、秀吉は京都の伏見^{ふしみ}(のちに桃山^{ももやま}とよばれた)に城を築いたので、この時代を安土桃山時代^{あづちももやまじだい}といいます。

小学校

学習した人物：豊臣秀吉

118-6

121

A5判 18P 歴史



↑ **4** 大阪城 (大坂夏の陣 関 屏 風 大阪城天
守閣蔵) 秀吉が全国の大名に築城を手伝わ
せました。

基本用語 近世

武士が政治の実権をにぎった時代のう
ち、安土桃山時代と江戸時代を近世と
いいます。((→ **72-7** ページ) 中世)

118-7

122

たいこうけんち 太閤検地

秀吉は、ますやものさし⑤などの基準を統一し、役人を全国に派遣^{はけん}して、田畑の面積をはかり、土地のよしあしや耕作者を調べさせ、村ごとに検地帳を作成しました。

収^{しゅう}穫^{かく}高^{だか}は、全国どこでも同じ大きさのますで測られ、石高^{こくだか}①で示されました。秀吉が全国で行った検地⑦を、太閤検地②とといいます。

太閤検地の結果、検地帳⑥に記された百姓^{ひやくしやう}③は、その田畑を耕作する権利^{けんり}を認められ、定められた年貢^{ねんぐ}を村ごとに領主である武士^{おさ}に納めることになりました。武

118-8 119-1

123

士は、その領地を石高であらわされ、石高に
応じて軍役^{ぐんやく}④を負担^{ふたん}することになりました。
こうして、公家^{くげ}や寺社は、それまで
荘園^{しょうえん}領主(➡ 70-5 ページ)としてもって
いた田畑に関する権利^{けんり}をすべて否定^{ひてい}され、
勢力を失いました。

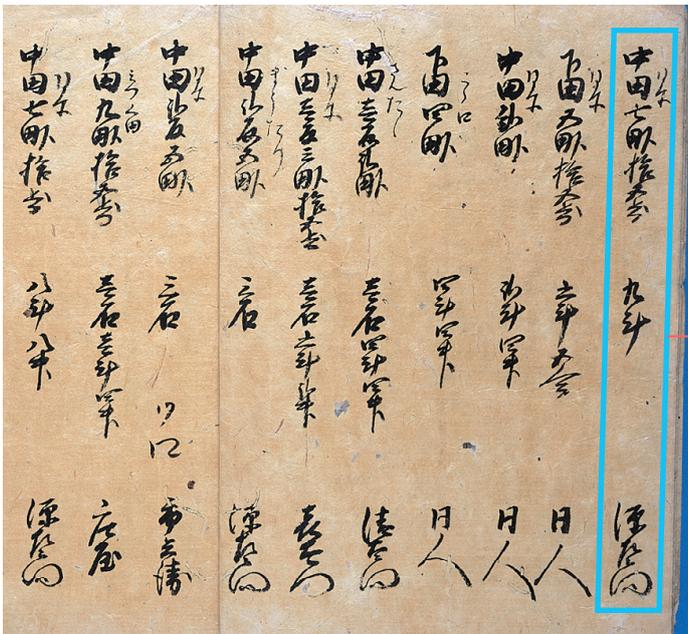
119-2

124



↑ **5** 検地に使われたものさし

(検地尺 ^{じゃく} 鹿児島県 ^{しょうこ} 尚古集成館蔵)



田畑の

〔等級〕 中田 ちゅうでん

〔面積〕 七畝拾五歩 せしご

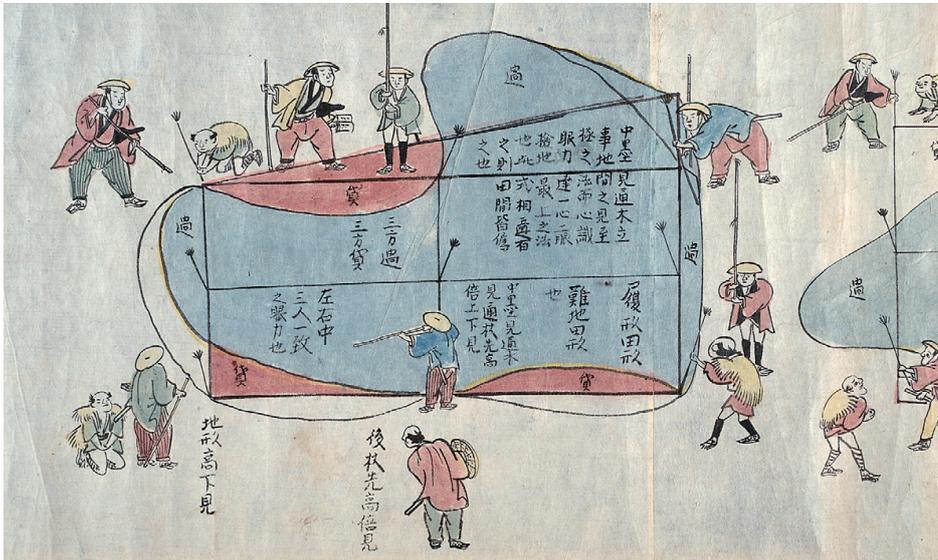
〔収穫高〕 九斗 と

〔耕作者〕 源左衛門尉 げんざえもんじょう

↑ **6** 1589年の検地帳 (熊本県立図書館蔵)

119-3

125



↑ 7 検地のようす (秋田県 玄福寺蔵) あきた げんぶくじ

江戸時代の検地のようすです。

119-4

126

かたながり 刀狩

秀吉は、^{かたながり}刀狩⑧を行って、百姓から刀・弓・やり・^{てっぽう}鉄砲などの武器を取り上げました。刀狩と検地によって、^{いっ き}一揆などの百姓の抵抗を防ぎ、武士と百姓とを区別する^{へい}兵^{のうぶん り}農分離を進めました。さらに、百姓が田畑をすてて武士・町人(商人・職人)になることや、武士が百姓や町人になることなどを禁止しました。武士と町人は町に、百姓は村にというように、住む場所も固定しました。こうして、武士と百姓・町人との身分のちがいをはっきりさせて、近世社会のしくみを整え、武士による支配を固めていき

119-5

127

ました。

また、秀吉は、初めはキリスト教を保護
しましたが、^{ながさき}長崎がイエズス会 (➡ 113-5
ページ) の領地になったことなどから、国
内統一のさまたげになると考え、^{せんきょうし}宣教師
を追放する命令を出しました。

119-6

128



⑧刀狩令

- 百姓が刀・わきざし・弓・やり・鉄砲，その他の武具を所持することを固く禁止する。その理由は，不必要な武具を持つと，年貢を納めずに一揆をくわだてることになるので，大名と家臣は，百姓の所持する武具をすべて取り上げ，秀吉に差し出すこと。
- 百姓は，農具を持ち，耕作だけを行っていけば，子々孫々まで長く続くであろう。

(『小早川家文書』より一部要約)

資料活用 秀吉は，刀狩を行う理由をどのように説明しているか読み取りましょう。

119-7

129

- ①石は体積ですが，1石を重さにすると米約150kgです。田だけでなく畑や屋敷^{やしき}も米の石高であらわされ，年貢が課されました。
- ②太閤は関白をやめた人のことで，ここでは秀吉をさします。
- ③百姓は，多くは農民ですが，村に住む漁民や山の民や職人^{ふく}も含まれます。
- ④武士が将軍^{しょうぐん}や大名に対して負う，軍事上の負担です。

119-8

130

A5判 18P 歴史



深めよう

なぜ、秀吉が行った事業を全国統一とい
うのでしょうか。



確認

秀吉はどのような社会をつくろうとし
たのか、百姓や町人に対する^{せいさく}政策から
説明しましょう。

119-9

131